

若者たちの声

羽立大神楽保存会のメンバーに神楽に対する思いや、魅力などについて話を聞きました。

「観客と一緒に盛り上げられる」「後継者、担い手不足が課題」「ずっと続いてほしい」――

羽立大神楽に対するたくさんのお話を話してくれました。この思いが、羽立大神楽の今につながっていることが分かりました。



観客と一緒に盛り上げられる楽しさ

小学生の頃に、三勝という演目で参加し始めました。獅子舞の演目には、小学校高学年から、笛で参加するようになりました。

羽立大神楽は独自性が強く、他の地域で似たような民俗芸能を見たことがありません。ステージや踊り場で披露するというよりも、観客に囲まれた場所で踊ったり、観客と触れ合ったりと、観客との距離が近く会場全体で盛り上げられることが魅力だと思います。羽立大神楽の獅子に噛まれると無病息災になるという言い伝えもあるんです！

後継者不足はずっと課題だと感じています。私が中学生の頃、ほかの民俗芸能の方から「若い後継者がいてうらやましい」と言われましたが、その頃から、私より若い参加者はほぼいません。保存会の中では今も若手メンバーです。もっと若手の会員が増えてくれると嬉しいです。



山谷健太郎さん

笛の音色に引き寄せられて

私が羽立大神楽と出会ったのは小学4年生の頃です。最初は大人の皆さんが踊ったり、太鼓を叩いたりしているのを見ていただけでしたが、そのうちにいろいろ教えてもらえるようになりました。そして気が付けば踊れるようになっていました。

神楽の踊りを見たり実際に踊るのが好きな人もいれば、太鼓や笛の演奏をするのが好きな人などいろいろいると思いますが、私は笛の音色が好きです。特に「七の段」という演目が、踊りも好きですが太鼓とともに聴こえてくる笛の音色が神楽の中で一番好きです。「今年も神楽の夏がやってきたな。楽しい気分になってきたな」と思わせてくれます。踊るのは体力を使うので大変です。

近年は神楽の若い踊り手がほばいない状況がずっと続いています。子ども達や若い世代の方に神楽は楽しいと思ってもらえるように、神楽がずっと続くように、積極的に参加し、声かけを頑張っていきたいです。



山谷健吾さん

愛される羽立大神楽を続けるために

リズムカルな太鼓や笛の音、力強い舞で人々を魅了する羽立大神楽。能代市にある民俗芸能では唯一の大神楽です。

現在、少子高齢化で各地の民俗芸能の担い手不足が問題となっており、羽立大神楽も例外ではありません。保存会の会員も高齢化が進み、舞を踊れる人が少なくなってきました。

担い手不足のほかに道具の問題もあります。獅子の頭は口で支えて動かしていますが、激しい動きをするため、老朽化が進んでいます。舞に支障が出てしまう前に補修や更新したいと考えていますが、獅子の彫刻を行える職人がなかなか見つかりません。

例大祭やイベントなどで披露するときに、拍手がおこったり、「神楽だ！」と大人から子どもまでさまざまな年代の方から言ってもらえるのがとてもうれしいです。これからも羽立大神楽で地域を盛り上げていきたいと思っています。そのためにはこの

伝統を若い世代へ受け継ぐ必要があります。地元地区に限らず、担い手を募集しています。まずは、実際に見て、体験して、羽立大神楽について知ってほしいです。

(羽立大神楽保存会)



羽立大神楽保存会の皆さん

イベントに登場します！

羽立大神楽をこの機会にぜひご覧ください。イベント前の平日に、練習も行っています。見学や参加などを希望の方はお問い合わせください。

問合せ 羽立大神楽保存会（工藤） Tel.090-2026-2711

きみまち阪 100 周年記念イベント

能代民俗芸能発表会（予定）

日にち 11月3日(日)

場所 きみまち阪公園

※雨天時は会場が変更となります。

能代民俗芸能アーカイブでは過去に披露された羽立大神楽の演目を動画で視聴できます。ぜひご利用ください。

